

第3回 循環共生型の地域づくりに向けた検討会 資料

目指すべき地域像について

2014年12月12日

1. 超高齢化と地方からの人口流出
2. 地域経済循環分析の拡張
 - 2-1. 地域経済循環の創出に向けて
 - 2-2. 健康で心豊かな暮らしの実現に向けて
 - 2-3. 地域ストックの再構築に向けて
3. 目指すべき地域像
4. 参考

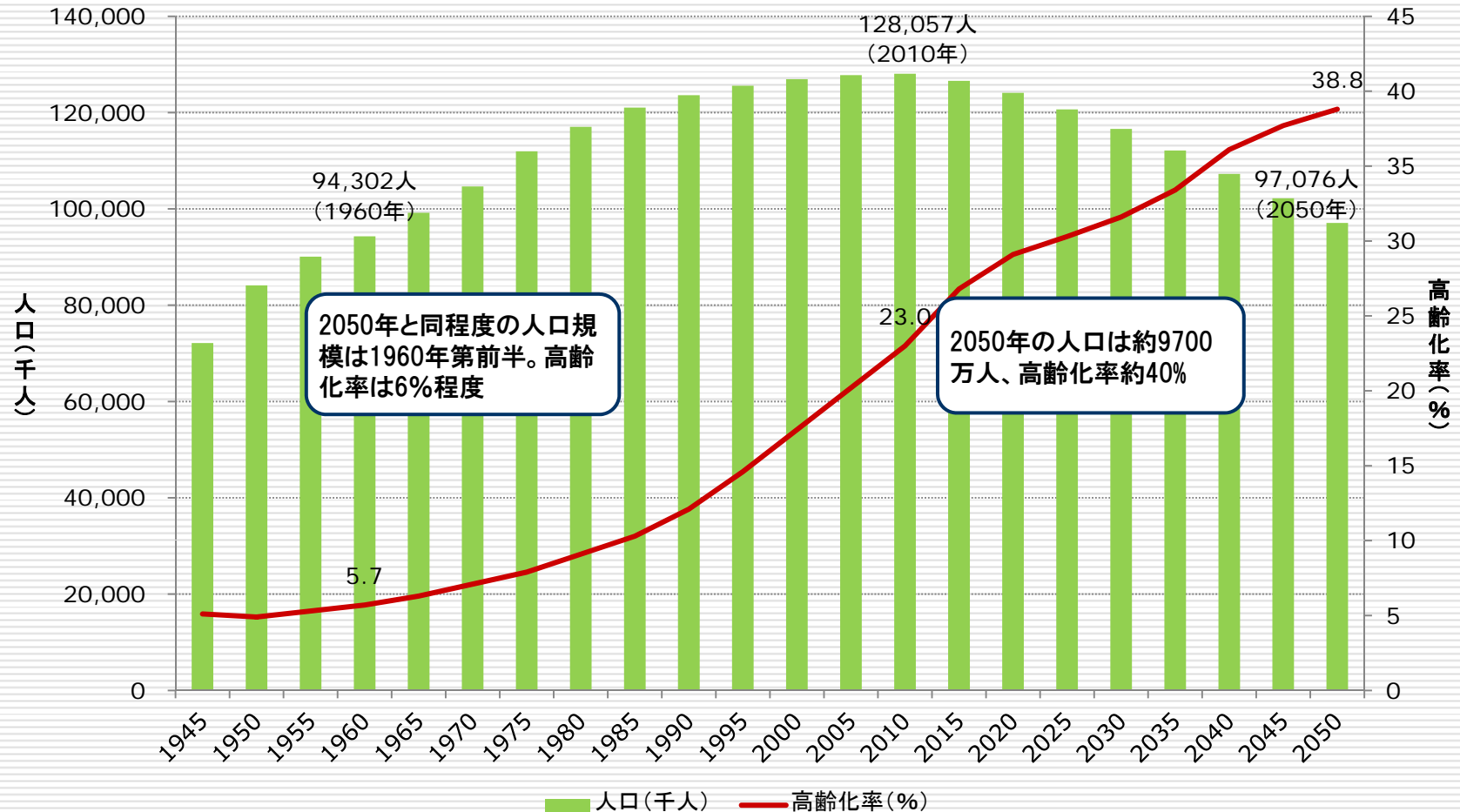
1. 超高齢化と地方からの人口流出

1. 将来人口の動向(1)人口減少と超高齢化

資料3

- ✓ 日本全体の人口は2008年の1億2808万人をピークに減少に転じ、今後本格的な人口減少と超高齢化が進む。
- ✓ 現状が続けば、2048年には1億人を割り込み2050年には約9,700万人と現在の4分の3の規模まで減少する。
- ✓ 過去に遡ってみれば、人口9700万人は1960年代前半と同程度の水準であるが、当時の高齢化率は6%程度で人口構造は全く異なる。

人口と高齢化率の将来推計



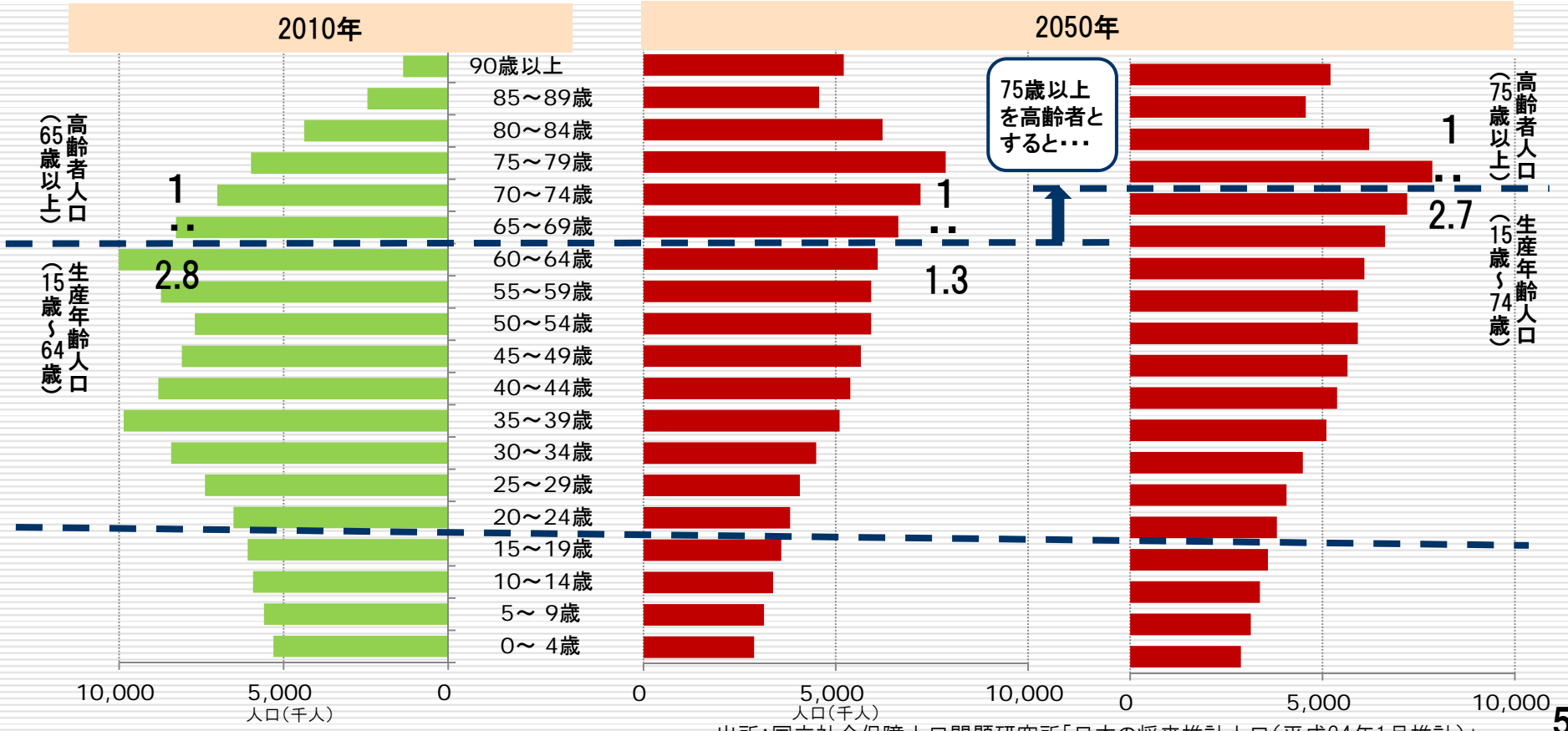
出所:国勢調査国立社会保障人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」

1. 将来人口の動向(2)人口構造の変化

資料3

- ✓ 年齢別の人口構成で見ると2010年では60代前半(団塊世代)と30代後半から40代前半(第二次ベビーブーマー)の比率が高いが、2050年になると70代後半が最も多くなる。
- ✓ 生産年齢人口と高齢者人口の比率で見れば、2010年には2.8人で高齢者1人を支えていたのが、2050年には1.3人で高齢者1人を支えることになり、現役世代の負担は大きい。
- ✓ 仮に、74歳までを現役世代とする(75歳以上を高齢者とする)と2050年でも、現役世代と高齢者の比率は、1:2.7となる。元気な高齢者が支える側になることで、負担を下げる事が可能になる。

年齢階層別人口構成(全国)



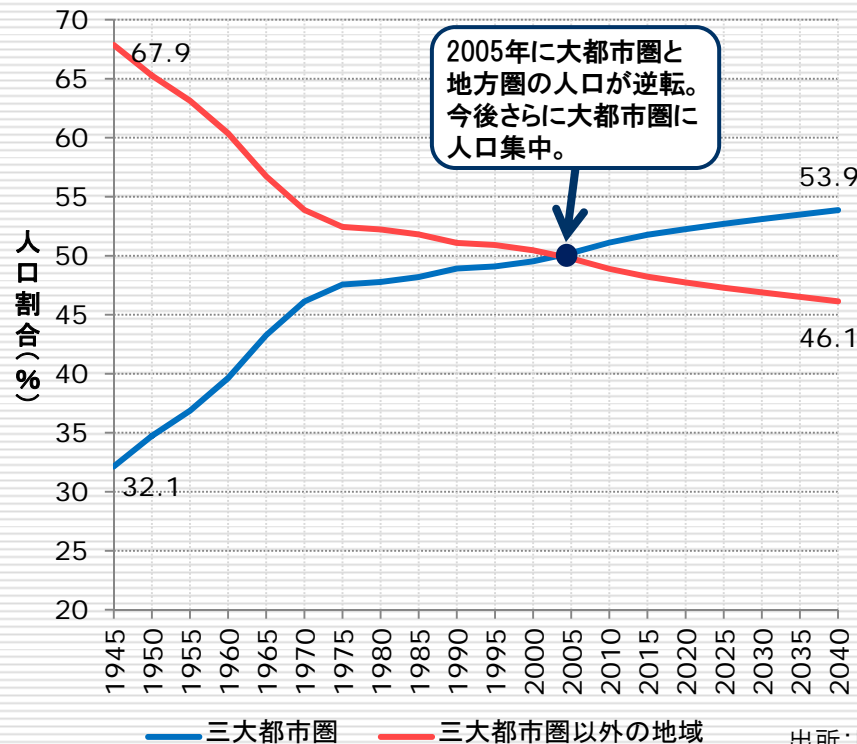
出所: 国立社会保障人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」

1. 将来人口の動向(3)地方圏の人口減少

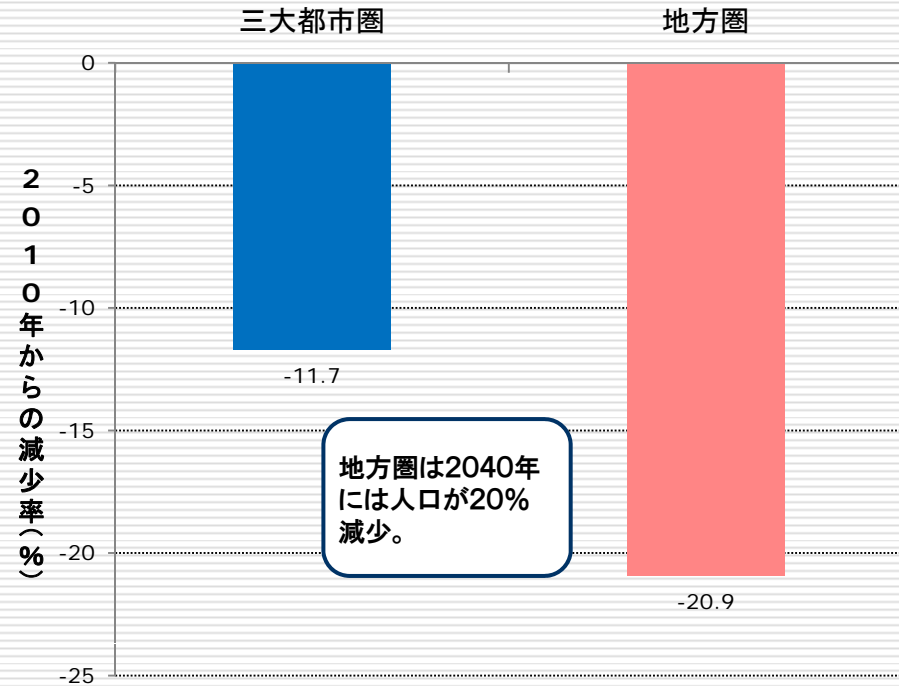
資料3

- ✓ 日本の人口に占める三大都市圏と地方圏の割合は、1945年には7対3で地方圏が多かったが、2005年に逆転。今後さらに大都市圏への集中が進み、2040年には地方圏の割合は46.1%まで低下する。
- ✓ 日本全体の人口が減少する中で、地方から大都市圏に人口が流出する結果、2010年から2040年の地方圏の人口減少はマイナス20%に及ぶ。
- ✓ 人口減少と超高齢化の大きなトレンドは食い止められないものの、大都市への人口流出を抑制し、高齢化が進んでも、住民の生活の豊かさが失われない地域像が求められる。

大都市圏への人口集中



圏域別人口減少率(2010年→2040年)



出所: 国立社会保障人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)』

2. 地域経済循環分析の拡張

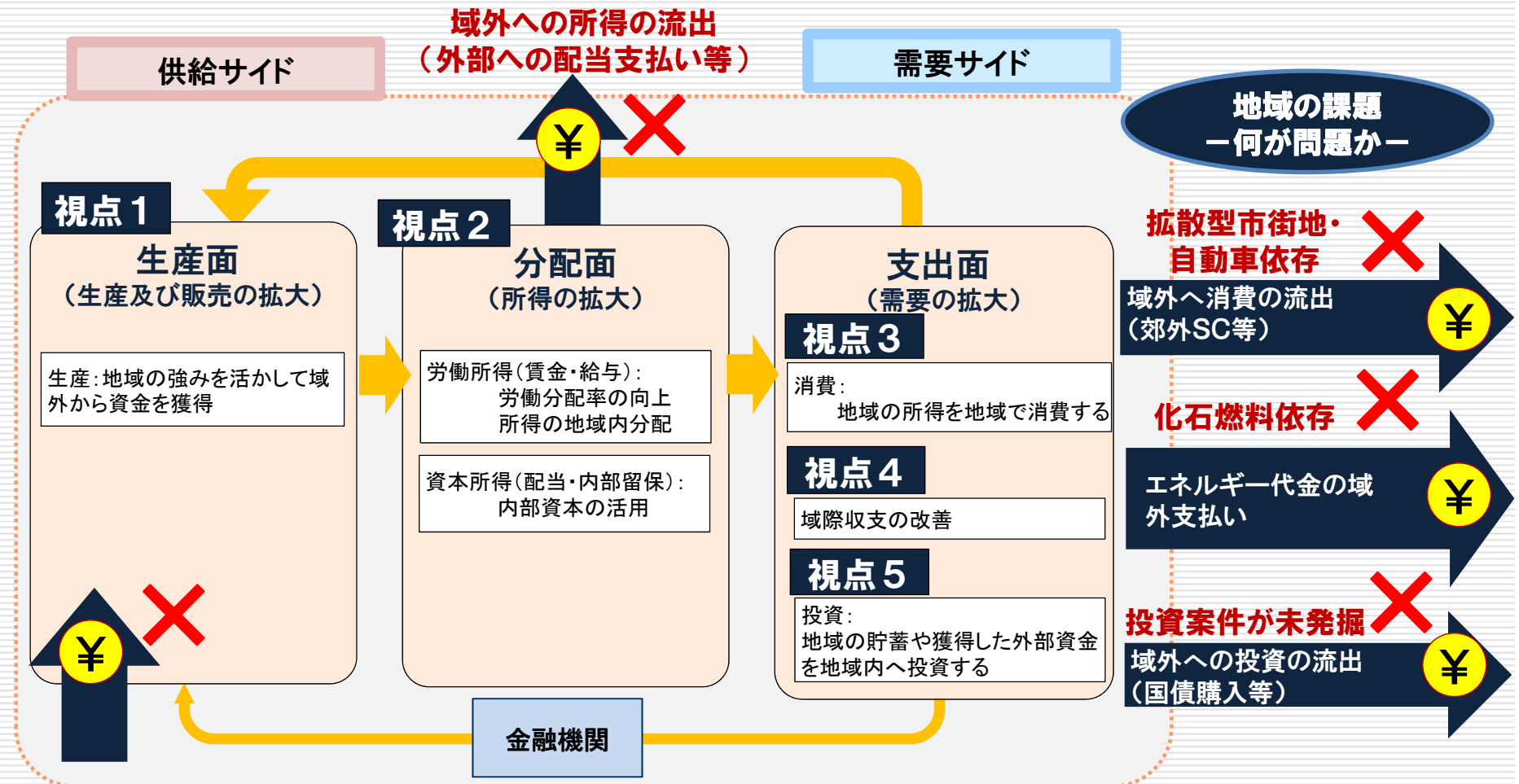
- ✓ 人口減少、超高齢化の進む地域の課題として、地域経済の疲弊、住民の健康問題やコミュニティの弱体化等の社会面の課題、地域のストックの減少がある。
- ✓ 地域経済循環分析に、社会面の課題（健康、コミュニティ、安心・安全な暮らし）や、地域のストック面の課題を加え、地域経済循環分析を拡張する。

2-1. 地域経済循環の創出に向けて

- ✓ 多くの地域では、経済循環が正常に機能せず、生産、分配、支出(消費、投資、域際収支)の各場面で、外部に資金が流出し、新しい価値を生み出せずに、経済循環の流れが細くなっている。
- ✓ 地域経済循環分析によって、地域の経済循環における問題を発見し、低炭素政策によって地域経済循環を創出することを検討する。

2-1.(1)地域経済循環からみた地域の課題

資料3



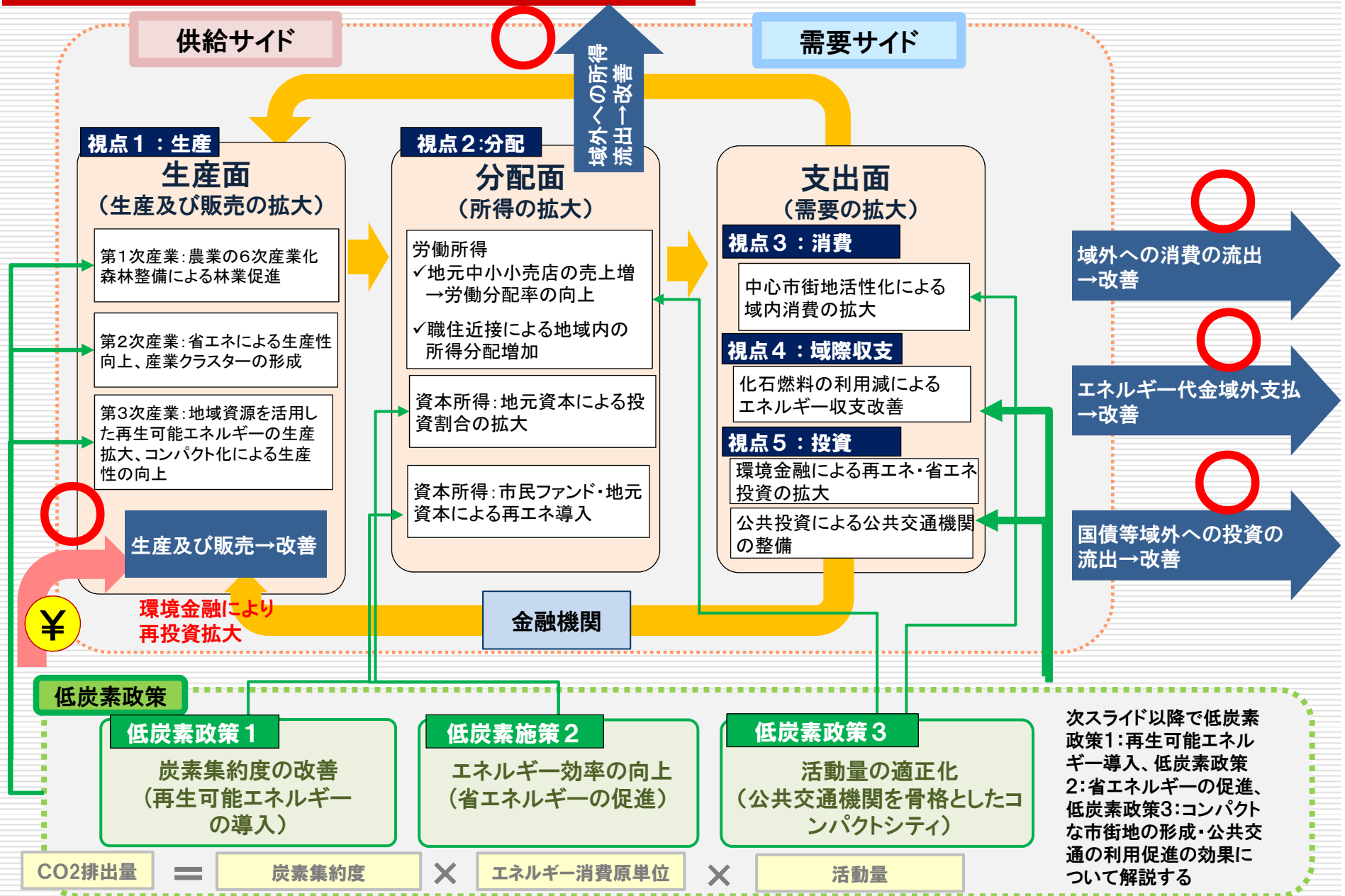
外部から資金を獲得できていない

- 視点1: 域外から資金を獲得している産業は何か
- 視点2: 域内に所得が分配されているか
- 視点3: 住民の所得が域内で消費されているか
- 視点4: エネルギー代金が域外に流出していないか
- 視点5: 住民の預金が域内に再投資されているか

- 問題点1: 強みのある産業が十分に活用できていない
- 問題点2: 域内の人材(女性・高齢者等)が十分に活用できていない
外部資本への依存による資本所得の流出
- 問題点3: 郊外店へ消費流出による中心市街地の空洞化
- 問題点4: 化石燃料への依存によるエネルギー代金の流出
- 問題点5: 投資案件が未発掘で域外へ投資が流出

2-1.(2)低炭素政策が地域経済循環に及ぼす効果

資料3

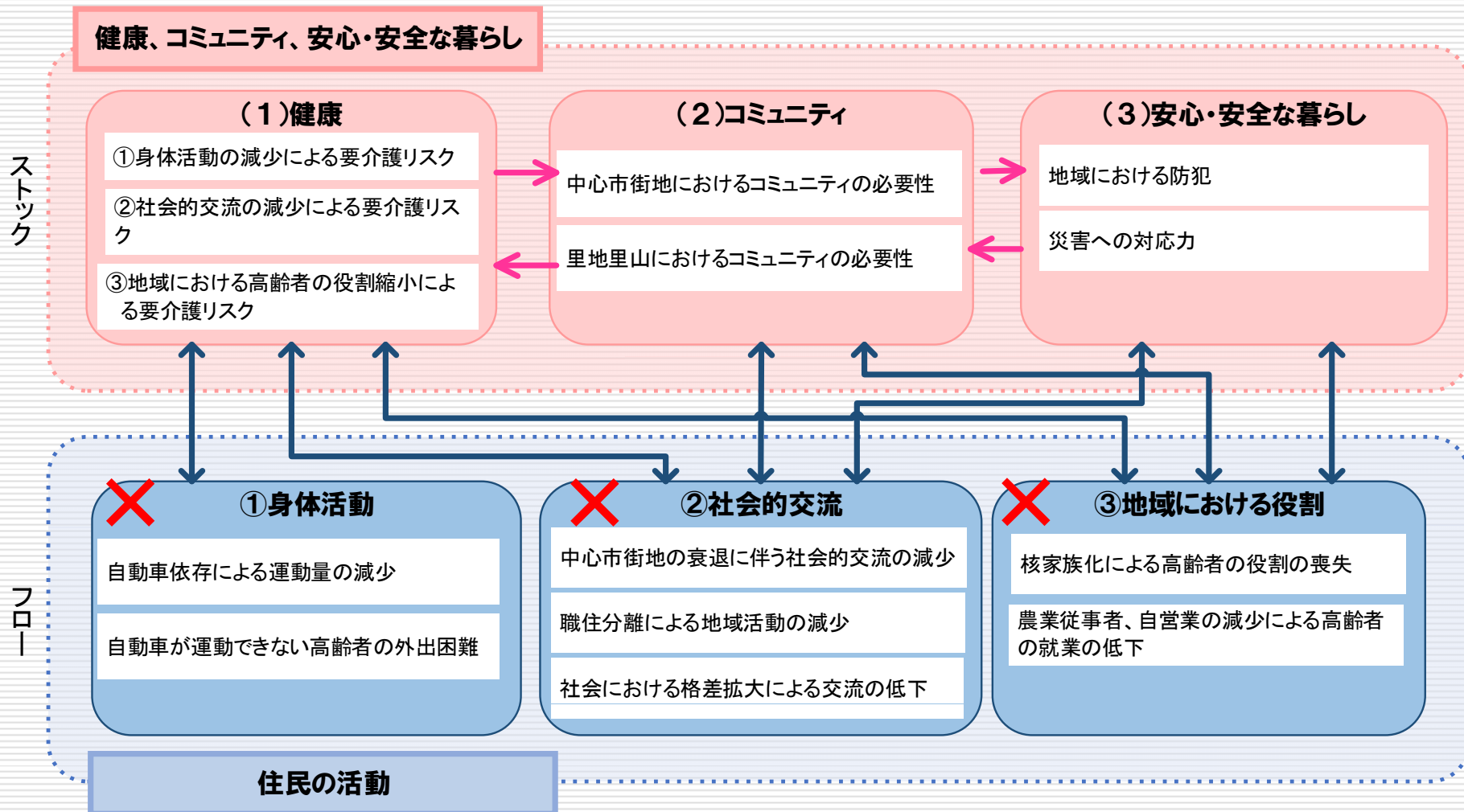


2-2. 健康で心豊かな暮らしの実現に向けて

- ✓ 地域経済循環分析から浮かび上がる社会面の諸課題のうち、高齢化の進む地域での大きな課題であり、かつ低炭素政策から派生する効果(副次的効果)が想定される「健康」「コミュニティ」「安心・安全な暮らし」について検討する。
→詳細は資料2参照

2-2. 健康、コミュニティ、安心安全な暮らしと住民の活動の関係

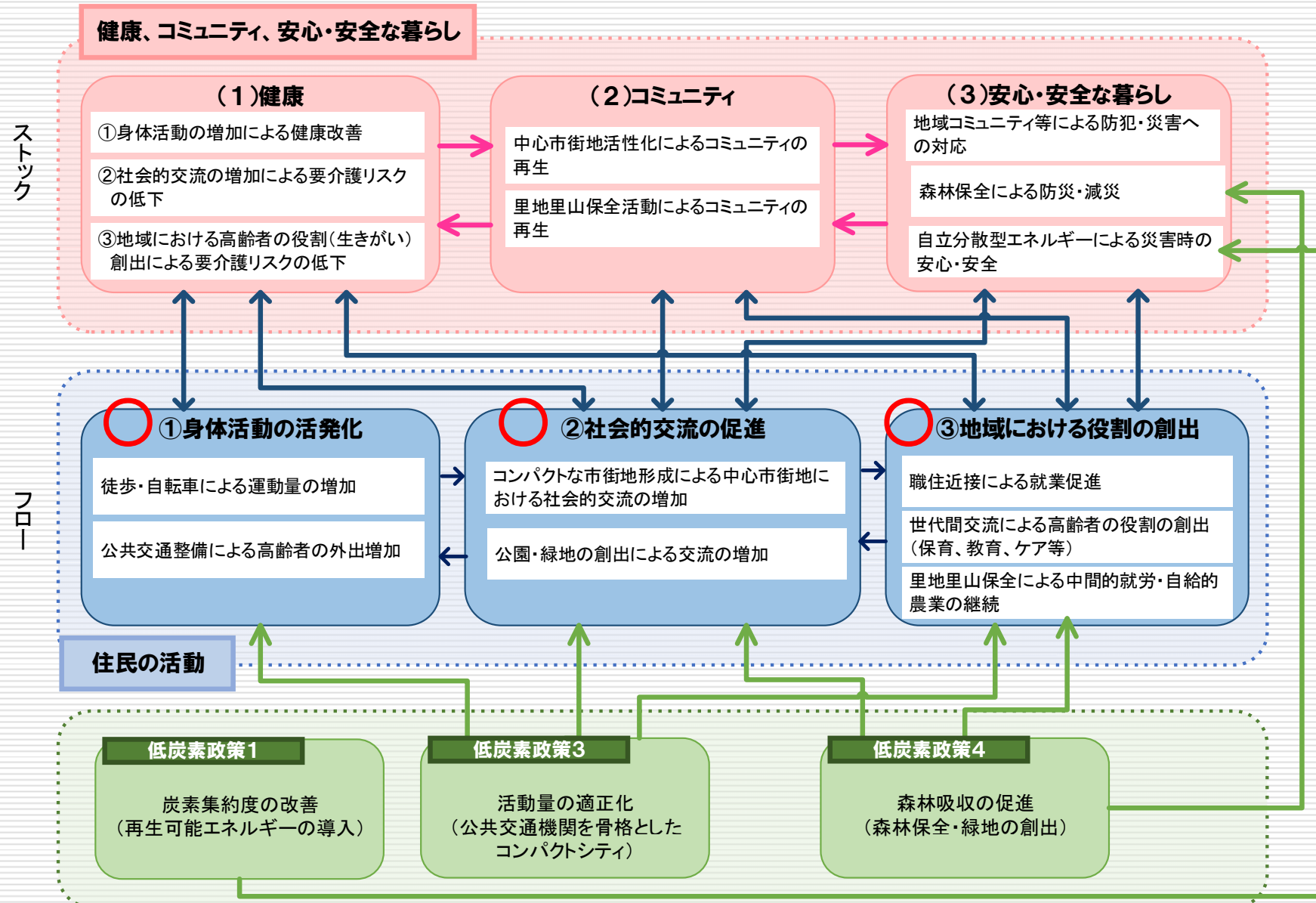
資料3



2-2. 低炭素政策による健康の改善、コミュニティの活性化、

安心安全な暮らし

資料3



2-3. 地域におけるストックの再構築に向けて

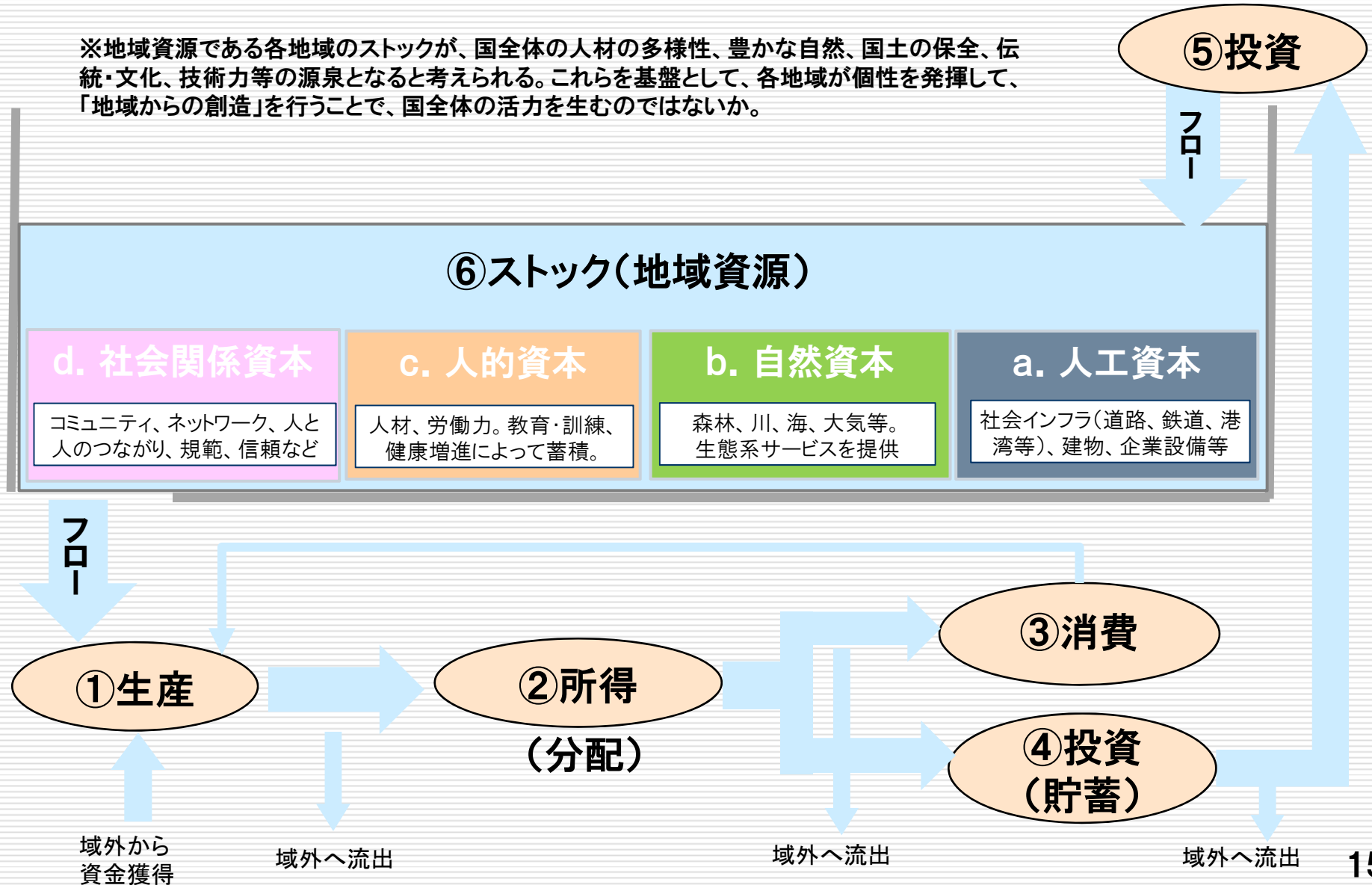
- ✓ 地域においてフローが悪くても地域が存続していけるのは、中央政府の再分配とともに、地域に資金面だけでなく、文化、習慣、コミュニティ、資源などのストックが蓄積されているためである。
- ✓ 一方で、経済のフローは悪くないのに閉塞感のある地域もある。一時的なフローは増えていても、自然やコミュニティの力が毀損し、人口減少等により地域のストックが減少していることが背景にあると考えられる。

2-3. 地域におけるフローとストックの関係①

資料3

✓健全な経済循環のフローを、持続的に生み出していくためには、健全なストックの蓄積が不可欠である。

※地域資源である各地域のストックが、国全体の人材の多様性、豊かな自然、国土の保全、伝統・文化、技術力等の源泉となると考えられる。これらを基盤として、各地域が個性を発揮して、「地域からの創造」を行うことで、国全体の活力を生むのではない。



2-3. 地域におけるフローとストックの関係②

資料3

健全な経済循環におけるフローとストックの関係

①生産 :ストック→フロー

企業は、労働と資本ストック(設備等)を使って、フローである生産を行う。

②所得の分配 :フロー

生産によって得られた所得が分配される(フロー)

③、④消費、投資(貯蓄):フロー

家計は所得を消費と投資(貯蓄)に振り分ける。消費は新たな生産となる。

⑤投資:フロー

家計からの貯蓄は、金融機関等を通じ、翌期の投資となる。

⑥資本ストックの蓄積 :フロー→ストック

投資によって、資本ストックが蓄積される。→①に戻り、企業は蓄積したストックを用いて再び生産を行い、経済循環が完結する。

地域におけるストック

a. 自然資本

森林、河川、海、大気等の自然資本は、食料、燃料、木材等の自然資源を供給し、森林による気候緩和、水質の浄化、防災、地域固有の伝統や文化を支える等、様々な生態系サービスを供給している。

b. 人工資本(インフラ、企業設備)

社会インフラ(道路、港湾等)、企業の設備、建物等の人工資本が、地域の生産や消費活動を支えている。

c. 人的資本(人材)

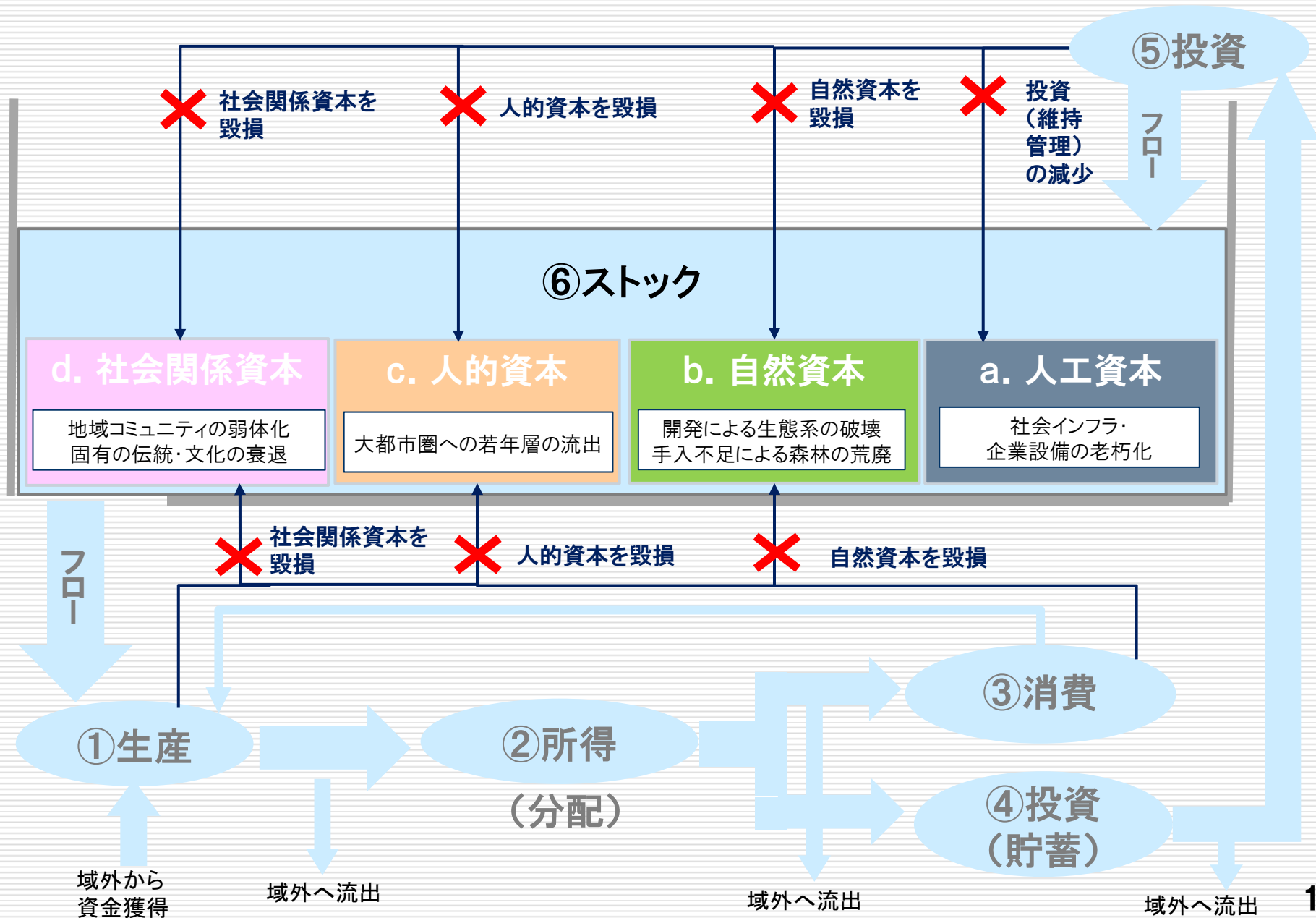
人的資本は、地域の人材の力であり、地域経済循環を生み出す源泉である。人的資本は、教育・訓練、健康づくりによって蓄積が進む。

d. 社会関係資本(コミュニティ、絆等)

コミュニティや地域の絆、規範や信頼といった社会関係資本(ソーシャル・キャピタル)も地域にとって重要であり、地域の経済や住民の健康にも影響する。

2-3. ストックからみた地域の課題①

資料3



2-3. ストックからみた地域の課題②

資料3

地域におけるストックの毀損・減少

ストックはフローを生み出す重要なものであるが、生産、消費、投資といった経済活動の中で、毀損する可能性がある。

a. 人工資本：社会インフラ・企業設備の老朽化

- ✓高度成長期につくられた道路、港湾、橋、水道等の社会インフラが老朽化し、維持管理のための費用が増加している。
- ✓企業は不況の長期化により更新投資ができず、設備の老朽化が進み、地域における人工資本が減少している。
- ✓質の高いストックへの投資ができず、長期のフローの創出にもマイナスになっている。

b. 自然資本：開発による生態系の破壊・手入れ不足による森林の荒廃

- ✓高度成長期以降の地域の開発過程においては、人工資本は増加したが、森林等の自然や生態系を破壊し、生産や消費においても河川や海の汚染等によって自然資本を毀損してきた。
- ✓また、近年では、手入れ不足により森林の荒廃が進み、自然資本が減少している。

c. 人的資本：大都市圏への若年層の流出

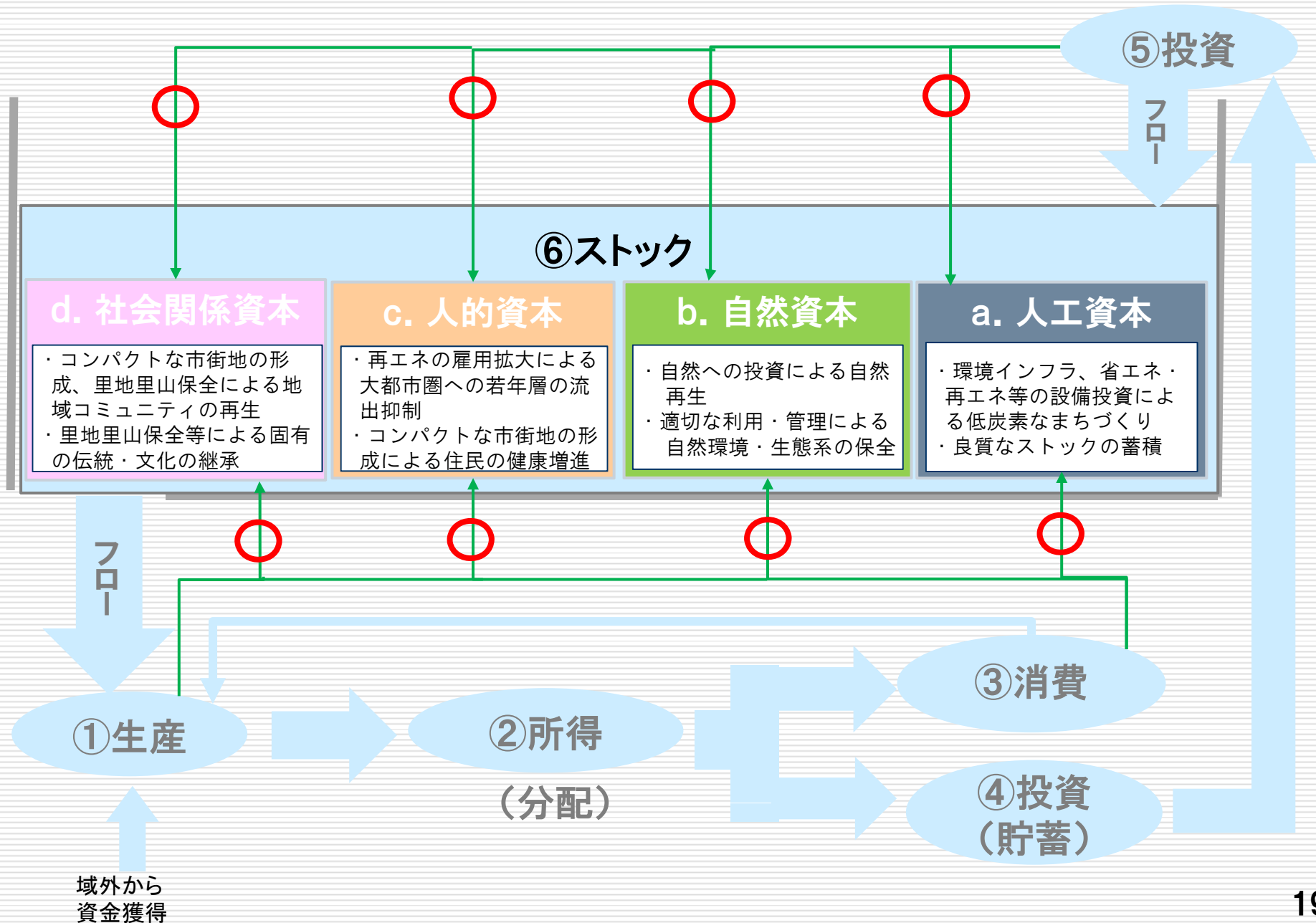
- ✓道路や鉄道等の社会インフラの構築により、若年層が大都市に流出し、地域における人的資本が減少している。

d. 社会関係資本：地域コミュニティの弱体化、固有の伝統・文化の衰退

- ✓大都市圏への人口流出、第一次産業の衰退、通勤による地域社会との分断等は、人と人とのつながりを弱め、地域コミュニティを弱体化させている。
- ✓コミュニティが弱くなり、地域固有の伝統・文化の伝承が困難になる等、社会関係資本が損なわれている。

2-3. 経済活動におけるストックの蓄積①

資料3



2-3. 経済活動におけるストックの蓄積②

資料3

経済活動によるストックの蓄積・維持

生産、消費、投資の経済活動によってストックを蓄積していく必要がある。

a. 人工資本:環境インフラ投資の促進・良質なストックへの投資

- ✓ 公共交通の整備や熱導管の整備等、環境負荷の少ないまちづくりや、低炭素かつ自立・分散型のエネルギー供給システムの構築等により、環境と経済にプラスとなる社会インフラ(人工資本)を蓄積する。
- ✓ 質の高いストックに投資することによって環境対策が可能になり、長期的な経済循環のフローにも寄与する。

b. 自然資本:自然再生、適切な利用・管理による自然環境・生態系の保全

- ✓ 高度成長の過程で破壊してきた自然資本を長期間かけて再生する。
- ✓ 里地里山等の森林や農地等の適切な利用、管理により、自然環境・生態系を保全し、自然資本を蓄積することによって、生態系サービス(フロー)を生み出す。

c. 人的資本:大都市圏への若年層の流出抑制・住民の健康増進

- ✓ 再生可能エネルギーの導入等、低炭素政策による雇用の創出等により若年層の大都市圏への流出を抑制する。
- ✓ 里地里山の保全、コンパクトな市街地の形成等により、自動車に頼らない健康的なライフスタイルを促進し、住民の健康を増進する。

d. 社会関係資本:地域コミュニティの再生、伝統・文化の継承

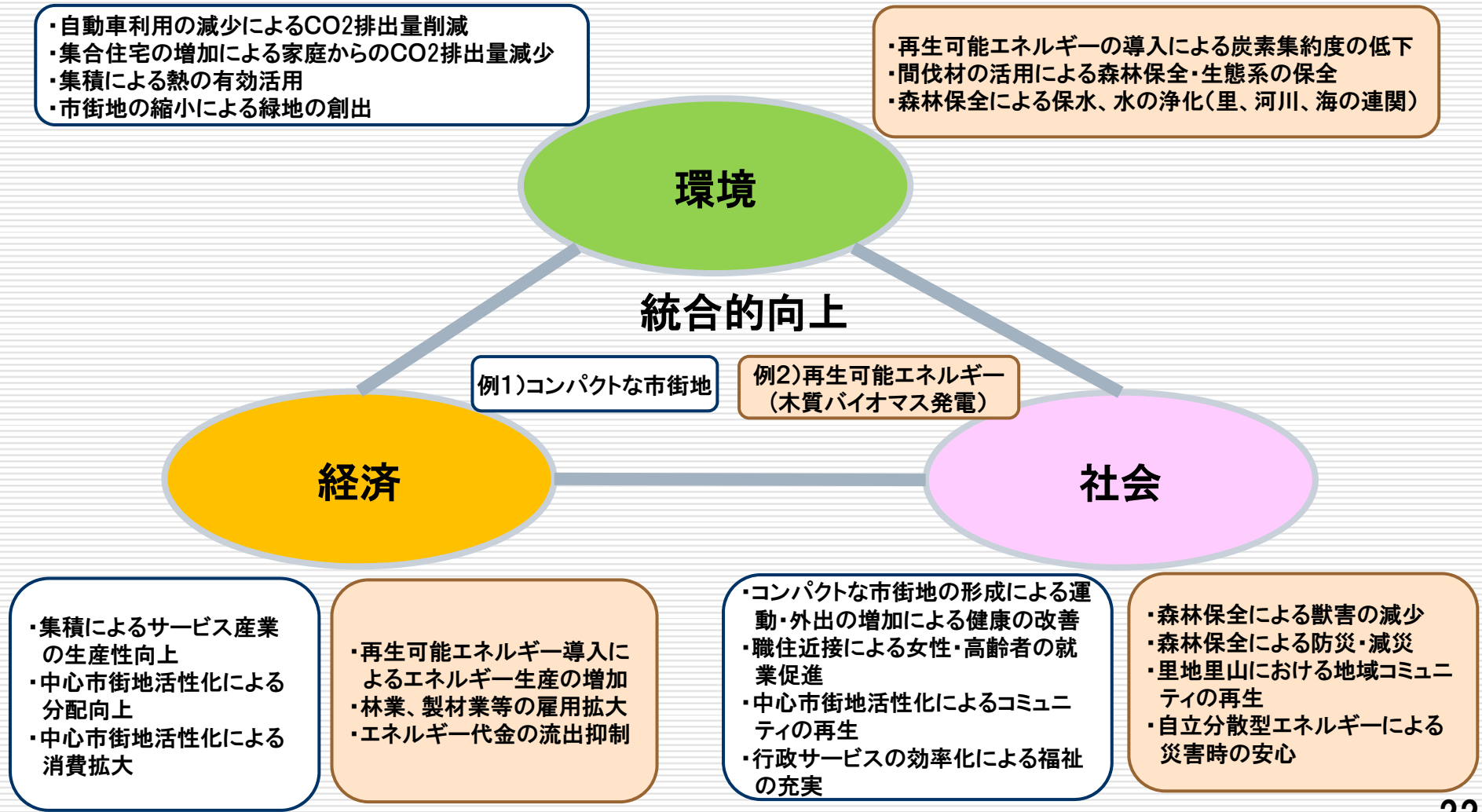
- ✓ 公共交通を骨格としたコンパクトな市街地の形成により、中心市街地を活性化し、地域コミュニティの力を強化する。
- ✓ 里地里山の保全によって、人と人のつながり、地域コミュニティを再生し、地域の自然や農業生産と結びついた地域固有の伝統・文化の継承を図る。

3. 目指すべき地域像

3-1. 目指すべき地域像:環境、経済、社会の統合的向上

資料3

目指すべき地域像は、環境、経済、社会の統合的向上を目指す環境基本計画を地域に落とし込んだものである。地域循環共生圏においては、環境、経済、社会の各面が互いに関係して統合的な向上が図られている。



3-2. 環境面：地域循環共生圏のイメージ

①都市部における公共交通を骨格としたコンパクトな市街地の形成

- ✓ 都市部においては、市街地が集約され、複数の市街地間が公共交通ネットワークで結ばれている（串と団子のイメージ）。
- ✓ 地域の気候風土にあったエコハウスや低炭素住宅により、快適でエネルギー消費が少ない暮らしが実現している。

②農村部における地域資源を活用した再生可能エネルギーの生産

- ✓ 農村部では豊かな地域資源を活用して再生可能エネルギーを生み出し、都市に移出している。

③農村からの自然資源の供給と都市からの人材・資金の提供

- ✓ 農村部から都市部へ、エネルギー、食料、水、木材などの自然資源や、水質浄化や自然災害の防止など生態系サービス等が供給されている。
- ✓ 都市部から農村部へは自然保全活動への参加などの人材や社会的投資など社会経済システムを通じた資金等が提供されている。

④資源の循環利用と環境負荷の低減

- ✓ リデュース、リユース、リサイクルが進み、資源生産性が向上、サーマルリサイクルによる熱利用も進み、物質とエネルギーの循環が図られている。
- ✓ 廃棄物処理など環境インフラへの投資により、環境への負荷が小さくなっている。

⑤自然資本の維持再生と森・里・川・海の連関の実現

- ✓ 自然環境が保全されるとともに、ストックとしての自然資本を適切に利用、管理することで、里地・里山・里海などが維持・再生され、森・里・川・海等の連関や健全な水循環が再構築され、健全な生態系が維持されている。

3-2. 経済面：地域経済循環の創出のイメージ

資料3

①イノベーションによる生産性の向上・高付加価値化(生産)

- ✓ 地域内循環だけでなく、外とのつながりがイノベーションを促進し、生産性の向上とともに、地域資源を活用して新たな価値を創出し、競争力を持った製品、商品を生み出している。

②再生可能エネルギー等による雇用の創出(分配)

- ✓ 地域資源を活用した再生可能エネルギー、自然の恵みを活用した農林漁業の6次産業化や自然再生が雇用を創出し、若者の流出を抑制している。

③環境価値への支払いによる消費・投資の拡大(消費・投資)

- ✓ 消費者は、地域産品や環境価値、文化価値を含む財・サービスを積極的に購入し、消費が拡大、成熟した社会における生活の豊かさを実感している。
- ✓ 地域の貯蓄が、地域に再投資されるとともに、社会的価値のある事業への直接投資が進んでいる。

④化石燃料の移入削減による資金フローの改善(域際収支)

- ✓ 再生可能エネルギーの導入、省エネルギーの促進、コンパクトな市街地形成によって、化石燃料の移入が削減され、域際収支が改善している。

⑤地域のフローとストックの好循環

- ✓ 生態系を活用した防災・減災への投資、熱導管、地域間の送電線、LRT・BRT等の公共交通機関等の環境インフラへの投資が、ストックとなり、経済におけるフローを生み出している。
- ✓ 地域の自然、文化、伝統等へ社会的投資がなされることにより、地域のストックが蓄積され長期的な成長の源泉となっている。

3-2. 社会面：健康で心豊かな生活のイメージ

① 徒歩を中心とした健康的なライフスタイルへの転換

- ✓ 歩いて暮らせる街が実現し、徒歩や自転車など生活の中で運動量が増え、子どもから大人まで健康的なライフスタイルになっている。
- ✓ 緑地の創出により、自然とのふれ合う機会も増え、心の健康も維持されている。
- ✓ 食料の地産地消が進み、安心・安全な食が実現、土地に根差した健康的な食文化(スローフード)は観光資源にもなっている。

② 社会的交流(世代間交流を含む)による健康の維持

- ✓ 中心市街地の公共空間には、子どもから高齢者まで多世代が集まり、世代間の交流が生まれている。世代間の交流は子どもの育ちや高齢者の健康の維持にも役立っている。
- ✓ 高齢になっても公共交通によって外出機会が確保されているため、人とのつながりを維持し、要介護にならずに自立している状態(健康寿命)が長く、医療費や介護費用も抑制されている。

③ 農業、地域活動等による高齢者の役割・生きがいの継続

- ✓ 高齢者が経験を生かして、自給的農業やコミュニティビジネス、地域活動等に活躍し、役割を持つことで、生きがいにつながり、生き生きと暮らしている。

④ 中心市街地の地域コミュニティの再生

- ✓ 歩いて暮らせる街では、高齢者の買い物、通院などの生活面での利便性が確保されるとともに、中心市街地が活性化し、地域コミュニティが再生している。

⑤ 里地里山の地域コミュニティの維持・再生

- ✓ 里地里山の保全活動等を通じてコミュニティの維持・再生が図られている。
- ✓ 自然保全活動や自然を生かした新たな文化活動(里山での芸術祭等)等により都市と農山漁村の交流が活発化し、新たなコミュニティが生まれている。

⑥ 安心・安全な暮らし

- ✓ 森林・農地の保全によって防災・減災が図られ、地域資源を活用した自立分散型エネルギーが災害時にも確保されている。
- ✓ 地域コミュニティの再生により、子育てや介護(ケア)も家族だけで抱え込まず、防犯面でも安心感がある。

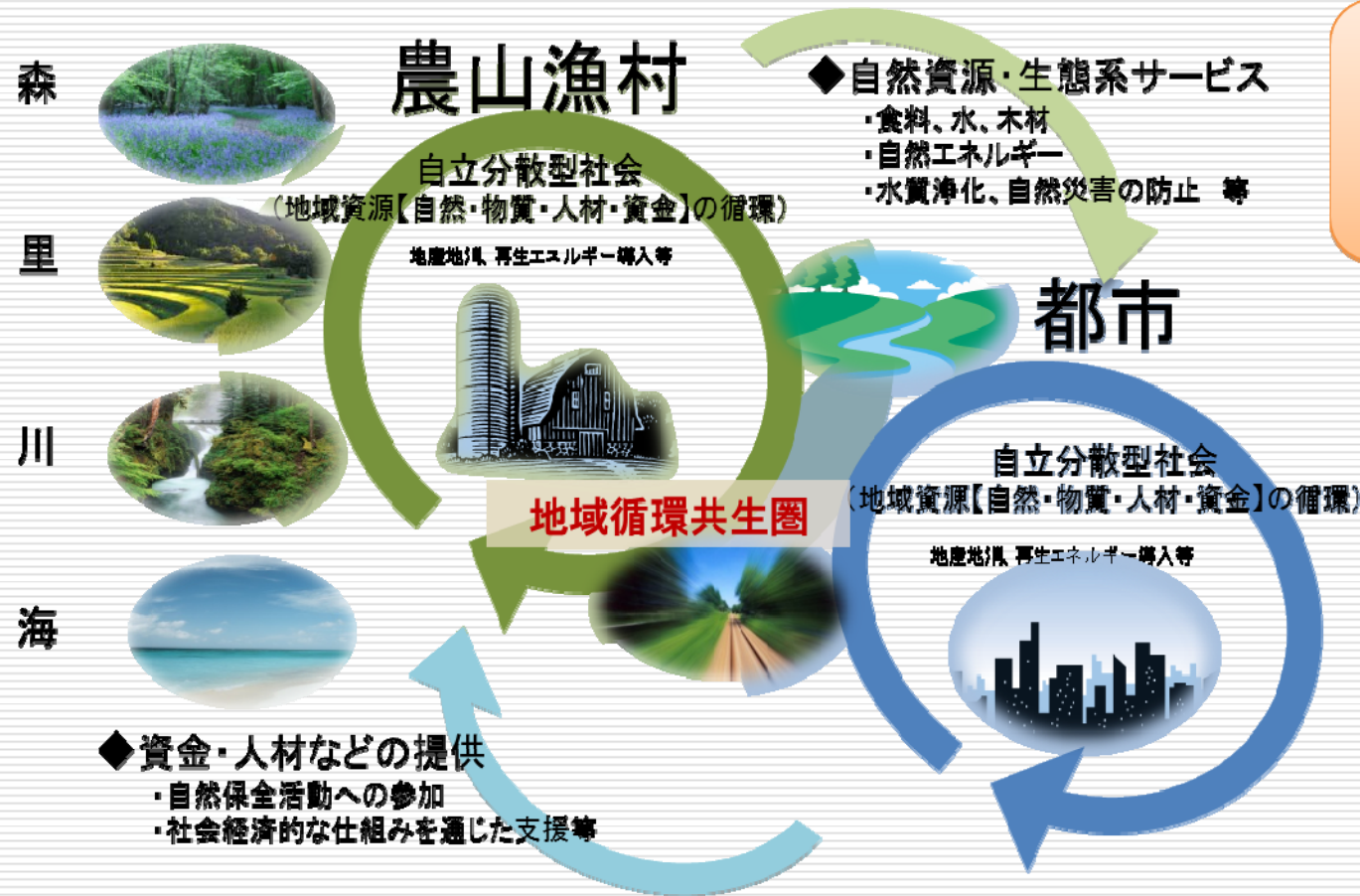
3-3. 目指すべき地域像としての地域循環共生圏のイメージ

資料3



(参考)地域循環共生圏のイメージ

資料3

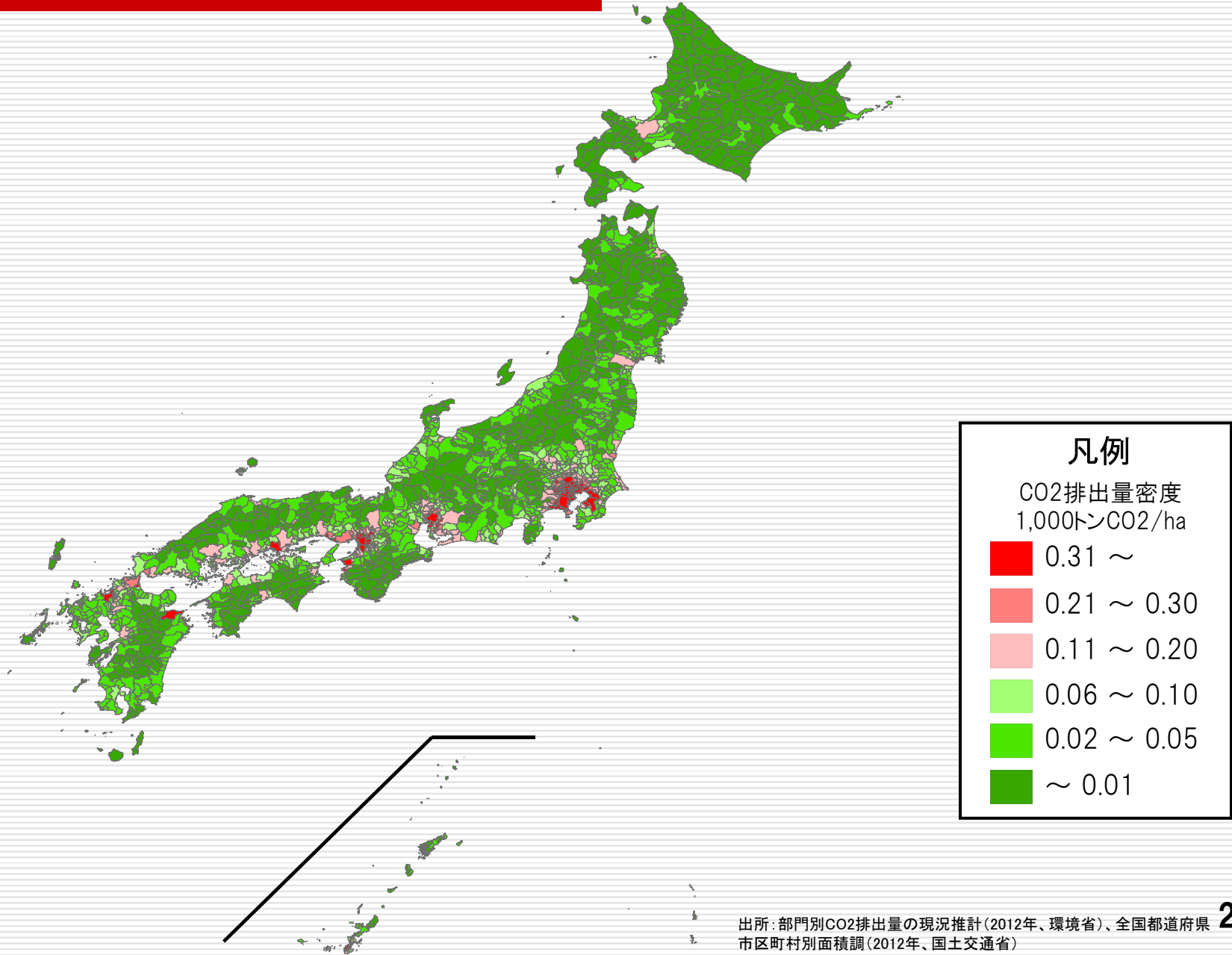


地域循環共生圏がそれぞれ密接に連携し、より広域な地域圏(ブロック)において、統合的・有機的な環境計画(地域圏環境グランドデザイン)を策定するというアプローチも重要な視点

- 各種計画(都市計画、公園計画、温暖化対策実行計画等)の連携
- 資金循環・人材活用等のための施策

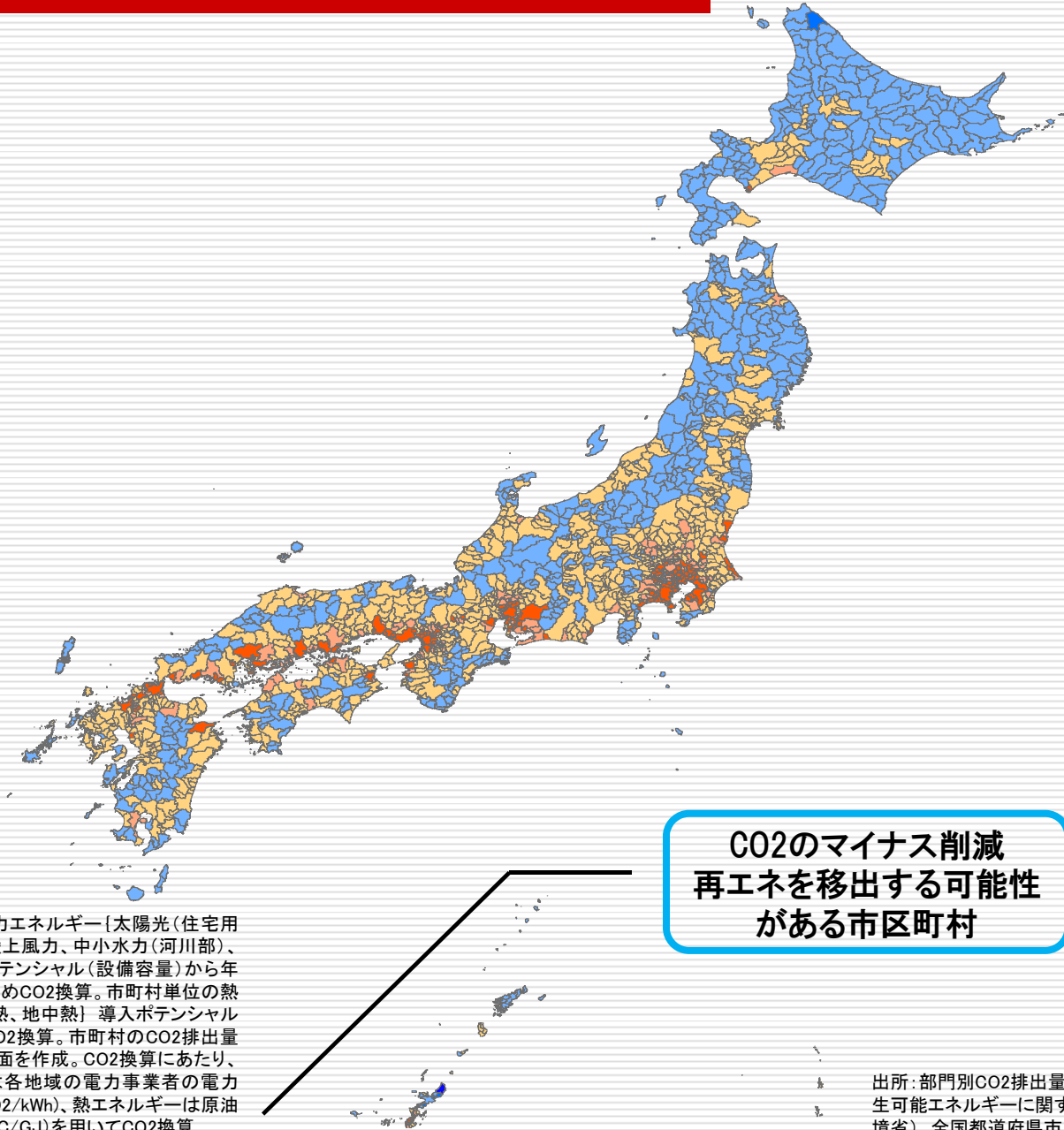
(参考)市区町村別の面積当たりCO2排出量

資料3

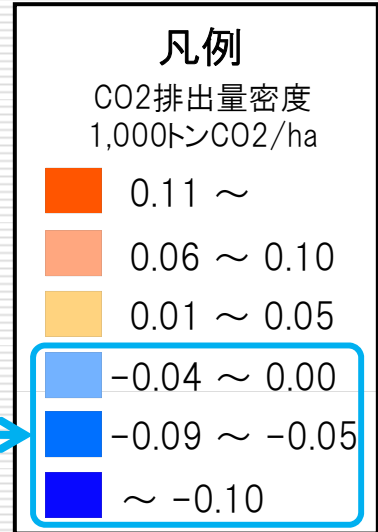


(参考)再エネを導入した場合の市区町村別の面積当たりCO2排出量

資料3



※大きな導入量が期待される洋上風力は含まれていない。
 ※現時点のエネルギー消費量をベースとしており、2050年80%削減に向けては、大幅な省エネが必要。その結果、再エネ移出が可能となる自治体も増える可能性がある。



CO2のマイナス削減
再エネを移出する可能性
がある市区町村

※市区町村単位の電力エネルギー〔太陽光(住宅用等、公共系等)、陸上風力、中小水力(河川部)、地熱発電)導入ポテンシャル(設備容量)から年間電力発電量を求めCO2換算。市区町村単位の熱エネルギー〔太陽熱、地中熱〕導入ポテンシャルは熱量ベースをCO2換算。市区町村のCO2排出量から差し引いて図面を作成。CO2換算にあたり、電力エネルギーは各地域の電力事業者の電力CO2排出係数(tCO2/kWh)、熱エネルギーは原油のCO2排出係数(tC/GJ)を用いてCO2換算。

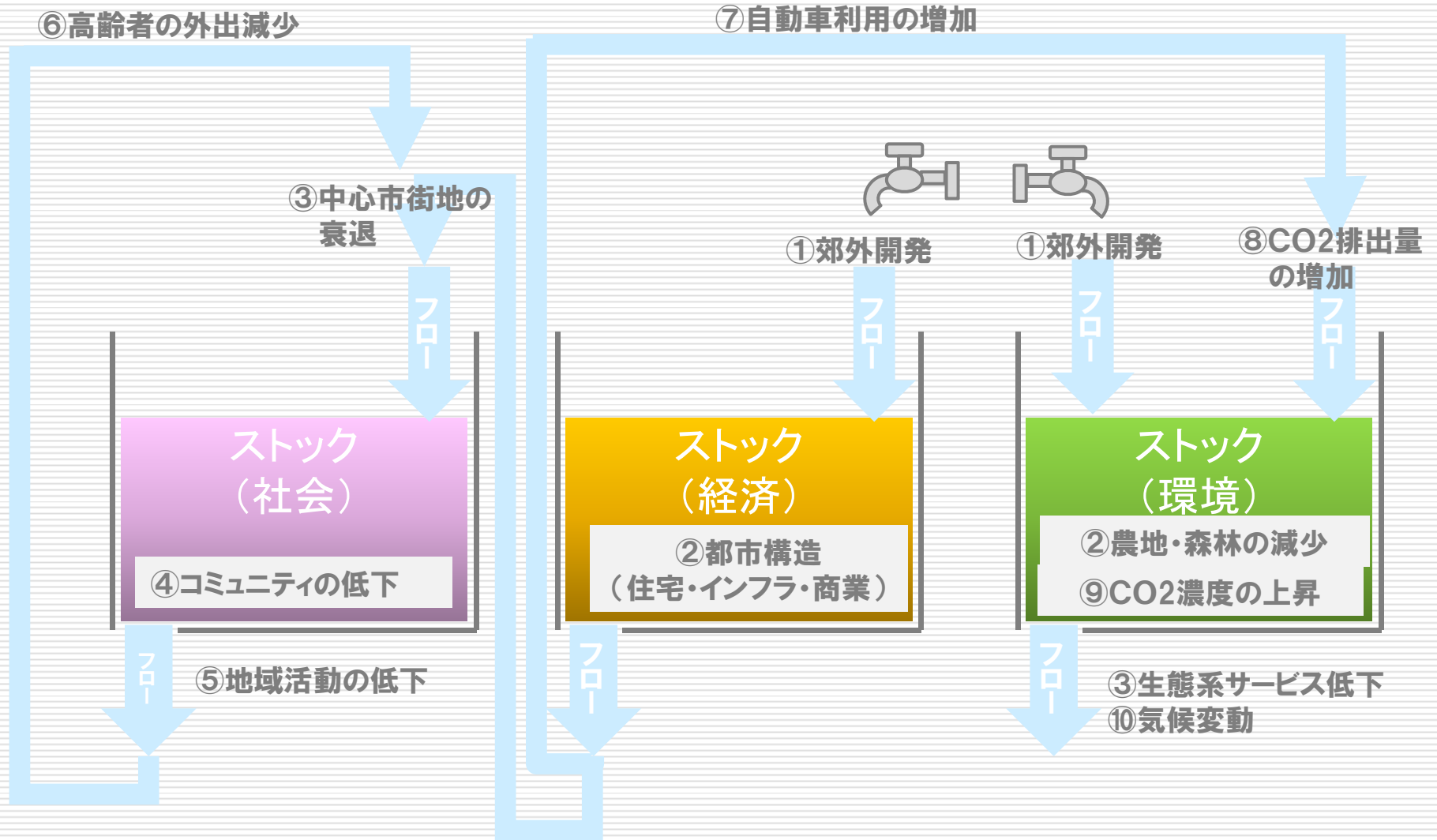
3-4. 目指すべき地域像(総括表)

資料3

	都市	農山漁村	つながり
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通を骨格としたコンパクトな市街地の形成 ・資源の循環利用 ・環境負荷の低減 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を活用した再生可能エネルギーの生産 ・資源の循環利用 ・自然資本の維持再生 	<ul style="list-style-type: none"> ・農村から都市への自然資源の供給 ・都市から農村への人材、資金の提供 ・森・里・川・海の連関 ・都市と農山漁村を結ぶネットワーク ・循環圏同士のつながり
経済	<ul style="list-style-type: none"> ・イノベーションによる生産性の向上・高付加価値化 ・環境価値への支払いによる消費・投資の拡大 ・化石燃料の移入削減による域際収支の改善 ・地域のストックとフローの好循環 	<ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギー、農林漁業の6次産業化による雇用の創出 ・化石燃料の移入削減による域際収支の改善 ・地域のストックとフローの好循環 	<ul style="list-style-type: none"> ・農村から都市への自然資源、エネルギーの供給 ・都市から農村への人材、資金の提供 ・循環圏同士の交易 ・大都市と地方の相互補完
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・徒歩を中心とした健康的なライフスタイルへの転換 ・社会的交流(世代間交流)による健康の維持 ・高齢者の役割・生きがいの創出・継続(コミュニティビジネス等) ・中心市街地の地域コミュニティの再生 ・安心・安全な暮らし(地域コミュニティによるケア、防犯等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・徒歩を中心とした健康的なライフスタイルへの転換 ・社会的交流(世代間交流)による健康の維持 ・高齢者の役割・生きがいの創出・継続(農業、林業等) ・里地里山の地域コミュニティの維持・再生 ・安心・安全な暮らし(森林保全による防災・減災) 	<ul style="list-style-type: none"> ・都市と農村の交流による新たなコミュニティ

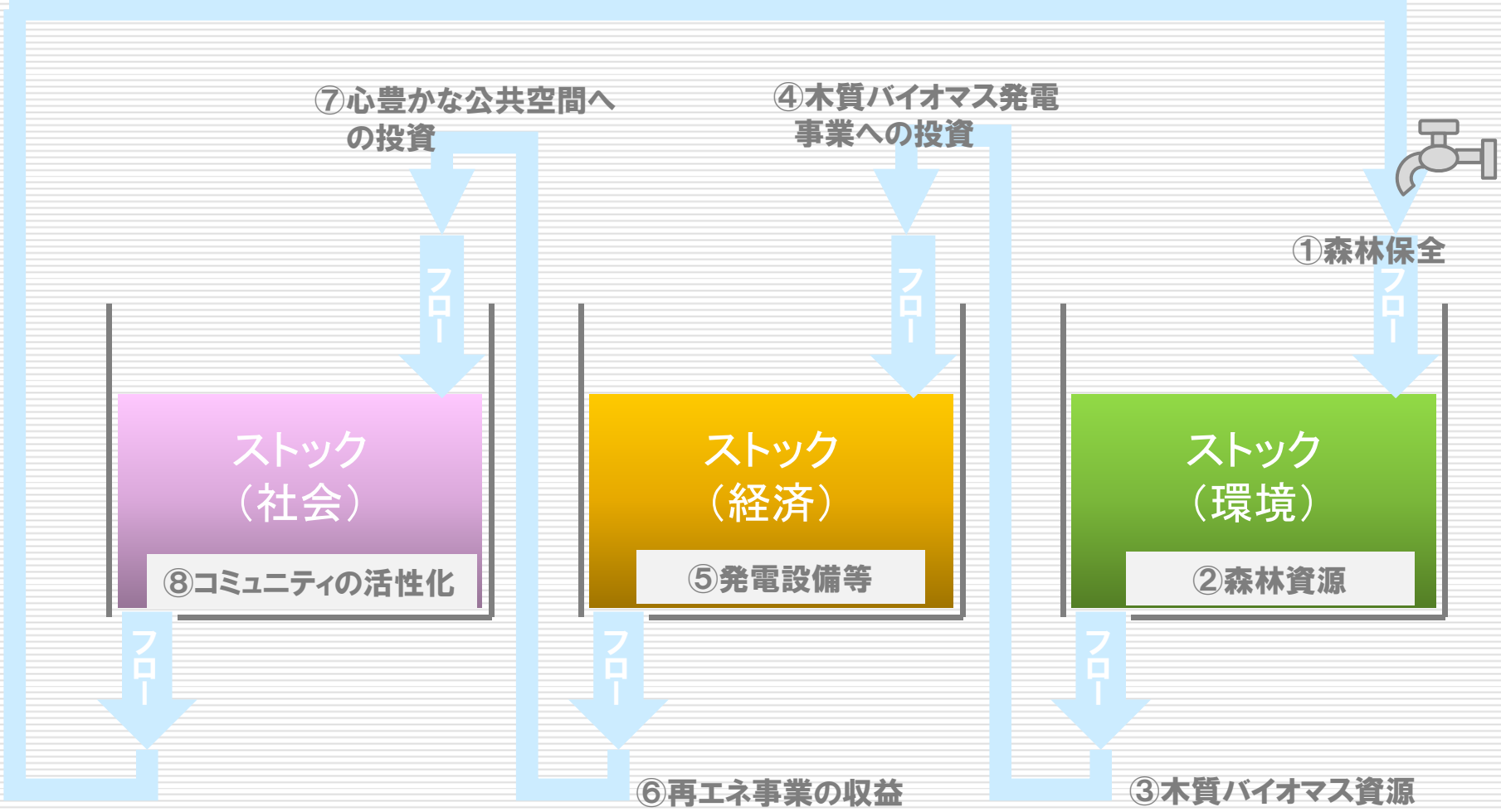
4. 参考

郊外開発による悪循環のイメージ



森林保全、木質バイオマス発電による経済、コミュニティの活性化の好循環のイメージ

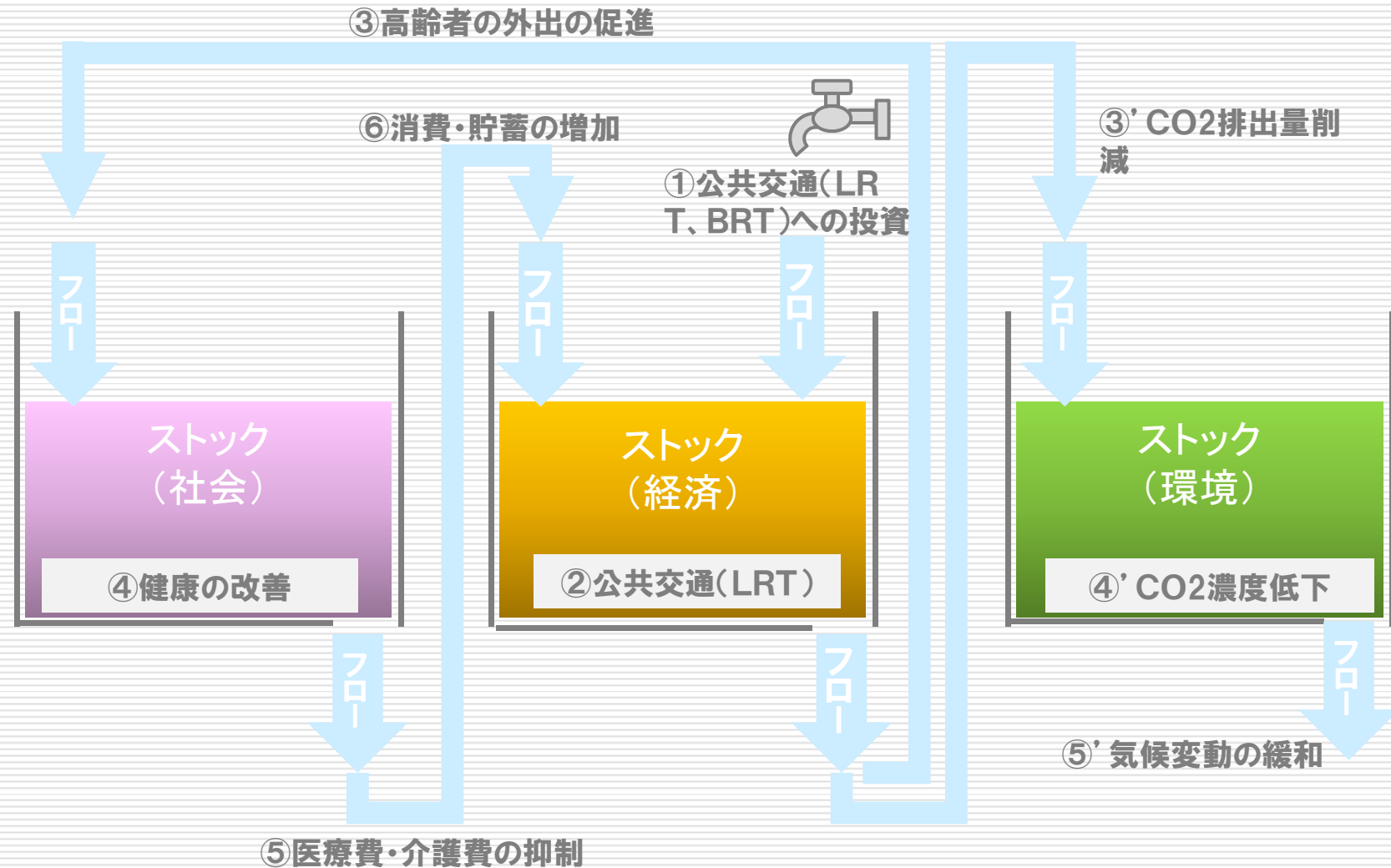
⑨地域活動の活発化(地域への愛着等)



(参考)環境政策によるフローとストックの好循環のイメージ②

資料3

公共交通への投資による高齢者の健康、CO2削減の好循環のイメージ

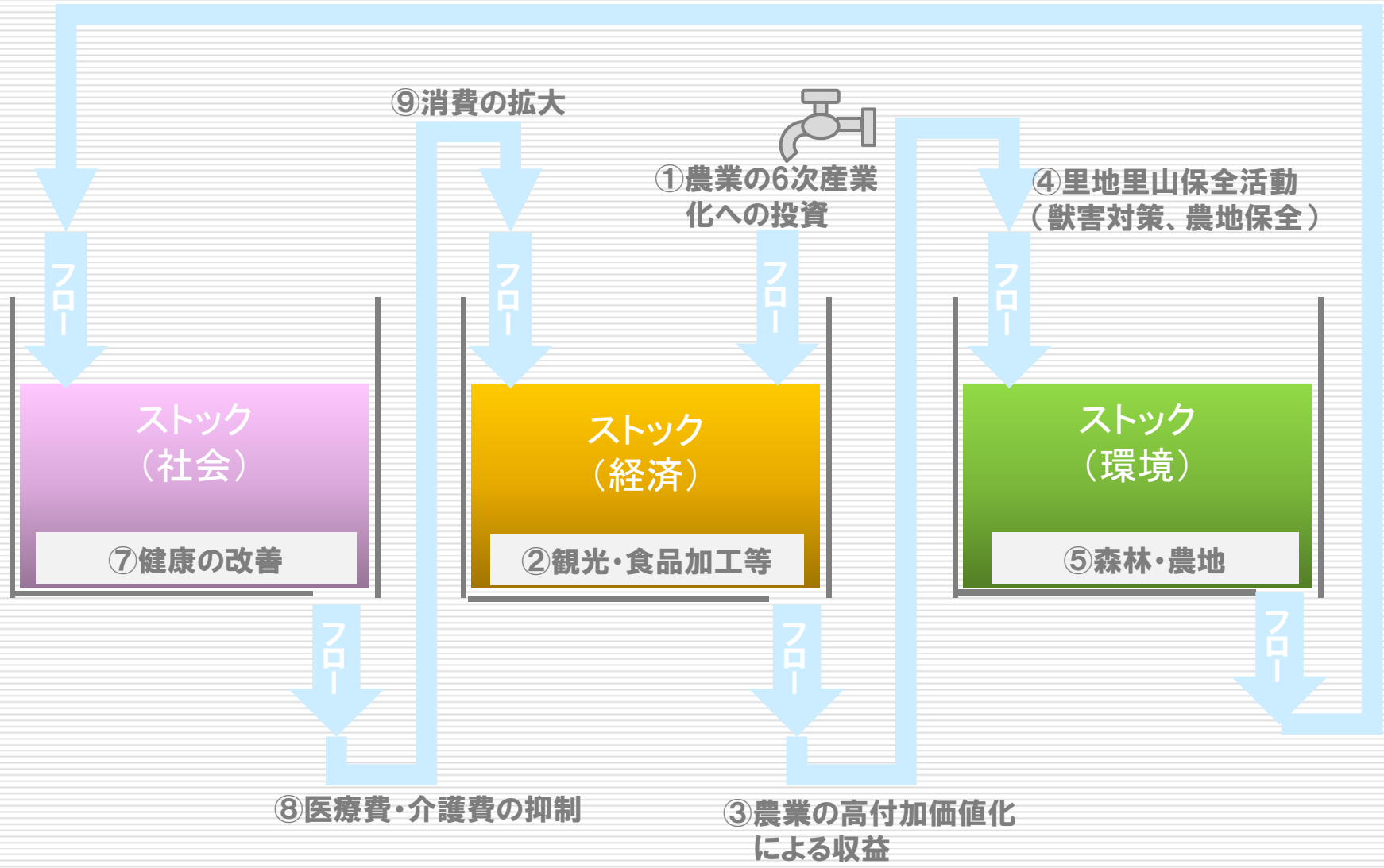


(参考)環境政策によるフローとストックの好循環のイメージ③

資料3

農業の6次産業化による里地里山保全、高齢者の健康の好循環のイメージ

⑥高齢者の役割創出(農業等)



自立分散型エネルギー投資と森林保全による減災・防災の好循環のイメージ

⑥防災・減災

